

秋山 照子（香川県明善短大）

目的 近世以降、現在の商品券に相当する切手・手形・券などが広く流通し、これらについては『守貞漫稿』はじめ、日記類（『小梅日記』『馬琴日記』など）にも散見できる。しかし、切手・手形に関して地域の食文化と関連づけた調査研究は管見ながらみられない。本報では、香川地域・近世近代における食関係の切手・手形・券などの動向から、料理、食品の発達、普及などをみようとする。

方法 香川地域に現存する慶弔の記録、寺社の日記、新聞（公告）などを資料とした。資料中の切手・手形を食品、用途、年代、地域別などに分類し、各々について検討した。

結果 1) 香川地域・近世近代の食関係の切手・手形の種類は以下のようである。

- ・酒（竹葉・諸白・養老）・まんじゅう（臚まんじゅう・虎屋まんじゅう）・菓子
- ・うどん・とうふ・焼とうふ・魚（肴）
- ・香川新報（公告）・・・菓子切手・手形（菓子類・砂糖類・洋酒類・缶詰）

2) 慶弔の贈答、寺社の献上品（供え、見舞いなど）など、全体として切手・手形の使用頻度の最も高い食品は酒（竹葉）である。3) 仏事関係の贈答中、使用頻度の最も高いものは豆腐切手（手形）で、仏事供応と豆腐料理の関係が窺える。4) うどん切手（手形）とその他の麺類（そば、そうめん、きりむぎなど）の関係。5) 切手・手形と「預け」との関係、および「現金引き替え」への推移。などについていくつかの知見を得た。

*本報における食関係の切手・手形の領域は、主として商品切手・手形の範疇に限り、米、大豆、砂糖切手などは含まない。